

ぐりとぐら



ぐりとぐらシリーズ

なかがわ りえこ 【さく】

おおむら ゆりこ 【え】

福音館書店 1963年 780円

28ページ 19×27cm

料理が大好きなぐりとぐらが、森の中で大きな卵を見つけます。2匹は大きな大きなカステラを作って、森中の動物たちと一緒に食べました。

リュックサックに荷物をつめたり、泡だて器でボールの中をかき混ぜたり。ぐりとぐらの楽しい作業の様子を、シンプルな絵柄で優しく描いてあります。出来上がったカステラの美味しそうなこと！

「ぼくらの なまえは ぐりと ぐら このよで いちばん すきなのは
おりょうりすること たべること ぐり ぐら ぐり ぐら」
文章もリズム感がよく、ぜひ声に出して読んでほしい絵本です。



くわすにようぼう



稲田 和子 再話 赤羽 末吉 画

福音館書店 1977年 840円

32ページ 27×20cm

ある日欲張りな男の前に美しい娘が現れ、男の女房になりました。女房はめしも食わずによく働くので、男は大喜び。しかし、男は蔵の中の米俵が減っているのに気づきます。おかしいと思った男は、山へでかけるふりをして天井から家の中をのぞくことにします。すると女房の頭のとっぺんから大きな口がでてきて…。

独特な語り口と迫力ある挿絵が話の展開により一層スリルを与えています。くわすにようぼうの弱点が菖蒲とヨモギだったことから端午の節句の由来にもなっている昔話です。

